丹波市総合計画 令和6年度 施策評価シート

まちづくりの目標	4	美しい自然と環境を大切にする源流のまち	施策担当課	環境課
施策目標	3	【ごみ処理】ごみの分別を徹底し、環境に配慮した循環型社会を形成しよう		
施策の展開	1 2	ごみの発生抑制 再使用と再生利用の推進	関係課	環境課

1 施策の現状・推移

5年後のまちの姿

・市民、事業者、行政が協働することで、ごみの発生抑制・再利用・再生利用の意識が浸透しています。 ・源流のまちとして、里山の美しい自然環境が守られた環境負荷が少ない循環型社会が形成されています。

2 成果指標・コストの推移

		単位	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
	一人一日当たりごみ発生量	g/日	目標	742.9	740.8	738.7	736.6	734.4	732.3	
	(全ごみ量)	g/ H	実績	754.6	773.4	760.6	747.7	726.9	724.2	
成	ごみの資源化(リサイクル)率	%	目標	16.6	17.4	18.2	18.4	18.5	18.7	
果	このの資源に(グッイブル)年	/0	実績	15.0	13.1	12.8	14.8	15.3	17.3	
指	一人一日当たりごみ発生量	g/日	目標	498.0	492.7	487.3	481.9	476.6	471.2	
標	(生活系ごみ)		実績	511.3	545.6	538.1	524.4	507.0	501.5	
			目標							
			実績							
	人件費	千円	実績	158,820	163,306	173,947	171,298	173,802	172,111	
コス	事業費	千円	実績	1,108,443	934,046	977,817	1,088,628	1,124,167	1,195,374	
	il	千円	実績	1,267,263	1,097,352	1,151,764	1,259,926	1,297,969	1,367,485	
	うち一般財源	千円	実績	894,803	891,040	889,004	993,279	1,091,023	1,185,521	

3 瑨倍亦化

3 塚現変化	
国・県の方針、関連法令 の動向	 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、一般家庭等から排出される一般廃棄物の処理責任は市にあるため、市民の生活環境を維持する。 ・プラスチック使用製品の設計指針や市町村の分別収集・再資源化等を盛り込んだプラスチック資源循環促進法が令和4年4月1日に施行された。 ・県が令和6年1月に策定した「兵庫県資源循環推進計画」では、「発生抑制・再使用・再生利用(3R)の推進、カーボンニュートラルの促進」をテーマの一つとして掲げられている。
市民ニーズの動向	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、燃やすごみ量は大幅に増加していたが、令和3年度以降減少している。 ・市指定ごみ袋(プラスチック系ごみ)の減額やごみ分別品目の増加などにより、リサイクル率が上昇している。

4 評価

4 計画	
目標の達成状況は順調 か。達成していない原因 は何か。	・一人一日当たりの全ごみ量(生活系・事業系・集団回収の合計)は、目標を達成できた。 ・生活系ごみ量は、目標達成に至っていないが、順調に減少が続いている。 ・リサイクル率は、剪定枝・刈草の資源化開始やプラスチック分別の徹底など令和4年度からの燃やすごみ減量施策により上昇傾向にある。
環境変化を踏まえた施策展開となっているか。	令和9年度から山南地域のごみを丹波市クリーンセンターで受け入れ、安定的に処理できるよう燃やすごみの減量及びごみの資源化に取り組むことで、3Rの推進、カーボンニュートラルの促進につながっている。
事業の構成や役割分担 で見直しの余地がない か。	・燃やすごみの減量及びごみの資源化を重点的に取組んだ結果が、成果の拡充につながっているため、今後も取組を継続していく。・今後も丹波市クリーンセンター、青垣リサイクルセンター等の既存施設を有効活用して、廃棄物を安定的に処理する。

5 今後の改革方向

●構成する事業一覧 (令和 6 年度実施事業)

事務事業名	予算小事業名	人件費 【千円】	事業費 【千円】		千円 うち一般財源	必要性	効果性	コスト	公平性
廃棄物処理	 及び資源循環推進事業	171,096	1,194,333				В	Α	A
	清掃総務費								
	最終処分場管理運営事業								
	丹波篠山市清掃センター管理運営事業								
	氷上多可衛生事務組合運営事業								
廃棄物処理	推施設整備・整理事業	1,015	1,041	2,056	2,042	А	В	Α	А
	一般廃棄物処理施設整理事業								
合計		172,111	1,195,374	1,367,485	1,185,521				

丹波市総合計画 令和 6 年度事務事業評価 事務事業名 廃棄物処理及び資源循環推進事業 事業期間 平成 16 ~ 無期 年度 事業担当課 所属長 山内 邦彦 担当 荻野 誠 担当

	441 A = 1 T	まちづくり目標	【【4】美しい自然と環境を大切にする源流のまち
位	総合計画	15 55 77	
177	1,0,0,0	施策目標	3【ごみ処理】ごみの分別を徹底し、環境に配慮した循環型社会を形成しよう
置		基本目標	
	創生総合戦略	至平日伝	
~"	台工心口状吧	施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
しけ	0.2 - (2022)	B	
.,	Ⅰ根拠法令•個別計画等	廃棄物の処理及び清	帰に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、丹波市廃棄物の適正処理、減量及び再生利用に関する条例

	化:	拠法令·個別計画寺	廃棄物の処理及び清掃に関9る法律、資源の有効な利用の促進に関9る法律、丹波巾廃棄物の適止処理、減量及び再生利用に関9る条例
言画		対象(誰を、何を) 目的 ベストな状態 (期待される効果)	市民・事業者、廃棄物・資源 ・丹波市クリーンセンターと各種処理施設で適正にごみ処理がされている。 ・ごみの減量化やリサイクルの各種取組が進んでいる。 ・燃やすごみの焼却量を12,880トン以下とする。
FLAN	務 事 業		 ・一般廃棄物処理基本計画、同実施計画及び分別収集計画の策定と進行管理 ・廃棄物処理施設(熱回収施設、リサイクル施設など)の管理運営 ・廃棄物の適正処理及びリサイクルの取組の推進、啓発活動 ・実施方法:直接実施、業務委託

		ト(単位:千円) F価年度は実績、計画年度	は予算	章)	令和元年度	令和2年度		令和4年度			備考
		総事業費 A+B			1,114,319	1,093,934	1,146,609	1,258,262	1,296,308	1,365,429	
		直接事業費A	直接事業費A			932,717 161,217 19.08 7,460	974,796 171,813 20.07 7,620	1,258,262 1,087,707 170,555 19.72 7,430	1,123,335	1,194,333 171,096 16.76 7,810	
		総人件費計(E+	入件費計(E+H)B			161,217	171,813	170,555	172,973	171,096	
	歳	職員従事者数((人・3	筆) C	19.09	19.08	20.07	19.72	19.32	16.76	
	出	【平均人件費】D)		957,053 157,266 19.09 7,400	7,460	7,620	7,430	7,540	7,810	
	一	人件費 E = C ×	人件費E=C×D			142 337	152,933	146,520	145,673	130,896 12.00	
		会計年度任用職員従事	人·年)F	141,266 8.00	8.00 2,360	8.00	146,520 9.50 2,530	145,673 10.00 2,730	12.00		
		【平均人件費】G	i		2,000	2,360	7,620 152,933 8.00 2,360	2,530	2,730	3,350	
		人件費H=F×		16,000	18,880	18,880	24,035	27,300	40,200		
		特定財源			225,557	206,312	262,760	266,647	206,931	181,950	受益者負担につ
		国·県支出金			3,838	3,936	1,500	3,385	3,020	3,985	受益者負担については、令和3
	歳	借入金(地方債)			0 206,748	0	0	0 0	0	0	年度よりその他
	入	受益者負担金	借入金(地方債) 受益者負担金			193,073		0	0	0	牛皮よりこの心
	' '	その他特財			14,971	9,303	261,260	263,262	203,911	177,965	特財へ変更
実		一般財源			888,762	887,622	883,849	991,615	1,089,377	1,183,479	
施					令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
	成	一人一日当たりごみ発生	g/日	目標	742.90	740.80	738.70	736.60	734.40	732.30	
D	果	量(全ごみ量)	g/Ц	実績	754.60	773.40	760.62	747.65	726.91	724.20	
0	成	ごみのリサイクル(資源	%	目標	16.6	17.4	18.2	18.4	18.5	18.7	
<u> </u>	果	化)率	70	実績	15.0	13.1	12.8	14.8	15.3	17.3	
	成	一人一日当たりごみ発生	g/日	目標	498.00	492.70	487.30	481.90	476.60	471.20	
	果	量(生活系ごみ)	I	実績	511.26	545.60	538.12	524.35	507.02	501.52	
	成	収集や処理に関する事故	件	目標	0	0	0	0	0	0	
	果	件数	17	実績	1	2	1	2	1	0	
	コス			目標							
	\ \			実績							
	⊐			目標							
	スト			実績							
	\vdash		・生活		・資源ごみ集団回	<u> </u> 収を含めた全ご∂	- →量の一人一日当	たり発生量は約2	 .7a減少した。内詞	 沢は生活系ごみが	約5.5g減少、資

・生活系・事業系・資源ごみ集団回収を含めた全ごみ量の一人一日当たり発生量は約2.7g減少した。内訳は生活系ごみが約5.5g減少、資源ごみ集団回収が約3.2g減少したが、事業系ごみは約6.0g増加となった。また、リサイクル率は約2%上昇した。

指標の推移等の背景・分析

・事業系ごみ増加の主な要因は、剪定枝・刈草の搬入量が約200トン増加。 ・リサイクル率上昇の主な要因は、剪定枝・刈草のリサイクル量増加及び製品プラスチックと容器包装プラスチックの一体回収・資源化によりリサイクル量が増加。

事務事業名	廃棄物処理及び資源循環推進事業				,	
事業担当課	生活環境部 環境課	事業期間	平成	16 ~	無期	年度

		事務事業全体の	実施([OO)に対する、事務事業の展開の評価	価・課題について		
		評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
1	\sim	(必要性) 市民にとって必要な 事業か。	Α	は、一般多姓寺かが正される一般発集物の	(コスト) 改善・改革等により 更に低コストで実施 できないか。(サービ ス・成果は維持)	Α	・直営施設は令和12年度までの長期包括契約により収集や処理にあたるコストはほぼ固定的である。 ・丹波篠山市清掃センター及び氷上多可衛生事務組合運営経費においても他団体が運営しているためコストを下げることが難しい。
	C K	(効果性) 成果につながってい るか。 進捗は予定ど おりか。 ※成果指標 に対する評価	В		(公平性・受益者 負担) 公平性に問題はないか。受益者負担 検討の余地はないか。	Α	・ごみ処理は市全域にわたり行っており、公平性は保たれている。 ・ごみ袋を通じた適切な受益者負担額について前年度同様に検討をしている。

総合的な評価と課題(成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など)

- ・令和4年度から本格的に実施した燃やすごみ減量施策により、燃やすごみの減量及びリサイクル率が向上した。
- ・家庭から排出される剪定枝・刈草の一部の資源化を開始したことにより、燃やすごみの減量と資源化率の向上につながった。
- ・一人一日当たりごみ発生量(全ごみ量)は目標を達成したが、生活系ごみの発生量は目標を上回っている。リサイクル率は向上しているが、ごみそのものを出さない「発生抑制」の取組みが必要である。

今後の方向性・改善策等

革

Α

0

・令和9年度からの山南地域ごみ受入れに向けた減量施策により、施設安定稼働量を下回る燃やすごみ量となったが、生活系ごみの減量とリサイクル率の向上の継続が必要である。

- ・生活系ごみを減少させるため、発生抑制の促進が必要である。
- ・ごみの分別、資源化について広報等を活用し、周知徹底を図る。
- ・市施設の健全な維持管理・運営を実施する。
- ・丹波市クリーンセンターは供用開始後10年が経過し、今後の改修に向けた計画の策定が必要である。

成果・コストの方向性 皆減 現状維持 縮小 拡大 成 拡充 果 現状維持 の 方 縮小 向 休廃止 性 コスト投入の方向性

●構成する予算小事業一覧

(単位:千円)

].	スト(評価年)	度は実績、計	画年度は予算)	
No.	予算小事業	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
1	清掃総務費	45,870	43,362	58,536	55,909	43,390	
2	丹波市クリーンセンター管理運営事業	674,220	670,296	683,593	742,322	819,972	
3	最終処分場管理運営事業	22,216	22,840	66,597	22,478	23,203	
4	丹波篠山市清掃センター管理運営事業	96,893	112,925	137,310	131,577	149,767	
5	氷上多可衛生事務組合運営事業	93,518	125,373	141,671	171,049	158,001	
6							
7							
8							
9							•
10							
	合計	932,717	974,796	1,087,707	1,123,335	1,194,333	

●外部評価 【令和4年度実施】

<u> </u>	可圖 【5/161 千及人》已		
	A:ごみの減量化、リサイクル率の向上のため、生ごみ処		a:生ごみ処理器購入補助の仕組みについて、広報たんば等を活用し
也協主	理機(キエーロなど)の購入支援のさらなる啓発をして	対応	啓発していく。
1日1101	(ほしい。		b:一般家庭の機密書類については、同様の手法で実施できるか検討
項など	B:機密書類の資源化について、一般家庭にまで範囲を	状況	していく。
	広げて行うことはできないか。		

年度事務事業評価 丹波市総合計画 令和 6 事務事業名 廃棄物処理施設整備·整理事業 生活環境部 環境課 事業期間 平成 19 ~ 令和6 年度 事業担当課 所属長 山内 邦彦 担当 担当 荻野 誠

<u></u>	総合計画	まちづくり目標	【4】美しい自然と環境を大切にする源流のまち
位	心口口凹	施策目標	3【ごみ処理】ごみの分別を徹底し、環境に配慮した循環型社会を形成しよう
置	創生総合戦略	基本目標	
づ	周玉心口料 哈	施策	
1+	まちづくりビジョン	取組項目	
V	根拠法令·個別計画等	廃棄物の処理及び清楚	帚に関する法律/資源の有効な利用の促進に関する法律/丹波市廃棄物の適正処理、減量及び再生利用に関する条例

	似如	心太下 1 他	発来物の処理及び海捕に関する法律/真線の有効は利用の促進に関する法律/
計画	事	対象(誰を、何を)目的ベストな状態(期待される効果)	丹波市クリーンセンター附帯施設、既存廃棄物処理施設 ・丹波市クリーンセンターの整備に関連する附帯施設の整備を早期に完了し、整備した施設を活かし資源循環型社会の形成に向けての取組が進んでいる。 ・廃止した施設の跡地利用が計画的に進んでいる。
(PLAN)	子務 事 業	概要 (具体的手段· 全体計画)	・丹波市クリーンセンター附帯施設の整備計画施設:市民広場、生ごみ・剪定枝リサイクル実証施設、管理道路、周辺道路等 ・既存廃棄物処理施設の解体(一部活用を含む)及び跡地整備対象施設:クリーンセンター(ひかみ・春日・市島の3施設)、リサイクルセンター(氷上・柏原・青垣の3施設)

	-										
		ト(単位:千円) 価年度は実績、計画年度	は予算	章)				令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
	(4)	総事業費 A + B 直接事業費 A		152,944 151,390 1,554	3,418 1,329	5,155 3,021 2,134 0.28 7,620	1,664 921	1,661 832	2,056 1,041 1,015		
		総人件費計(Fa	-H)	В	1,554	2,089 0.28 7,460	2,134	743	829	1,015	
	歳	職員従事者数((人・3	=) C	0.21	0.28	0.28	0.10	0.11	0.13	
		【平均人件費】D)		0.21 7,400	7,460	7,620	0.10 7,430	7,540	0.13 7,810	
	出	人件費 E = C×	D		1.554	2.089	2.134	743	829	1,015 0.00	
		会計年度任用職員従事	者数(人·年)F	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		【平均人件費】G	ì		2,000	2,360	2,360	2,530	2,730	3,350	
		人件費H=F×	G		0	0	0	0	0	0	
		特定財源			146,903	0	0	0	15	14	
		国・県支出金				0	0	0	0	0	
	歳	借入金(地方債)			23,700	0	0	0	0	0	
	入	受益者負担金			0	0	0	0	0 15	0	
					123,203	0	0	0		14	
実		一般財源			6,041	3,418	5,155	1,664	1,646	2,042	
施		指標名	単位	目標実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
	成	/	٥,	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
D	果	付帯施設整備率	%	実績	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
0	成	DT +-+-=0.±6.TD	٥,	目標	82.4	82.8	91.2	91.2	-	-	
<u> </u>	果	既存施設整理率	%	実績	65.9	65.9	65.9	65.9	-	-	
				目標							
				実績							
				目標							
				実績							
	コス			目標			_		_		
	^ -			実績							
	٦			目標							
	スト			実績							
	・丹波市クリーンセンター他、最終処分場等の施設を適正に維持管理し、処理施設の機器類を順次更新、修繕を行う必要が							善を行う必要が			

ある。

指標の推移等の背景・分析・旧最終処分場については、水質管理を行い、廃止手続きが可能な施設については、廃止手続きを進める。

事務事業名	廃棄物処理施設整備·整理事業						
事業担当課	生活環境部 環境課	事業期間	平成	19 ~	令和6	年	度

		事務事業全体の	実施(D	OO)に対する、事務事業の展開の評価	西・課題について		
_	_ [評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
1 () H	(((必要性) 市民にとって必要な 事業か。		用途廃止した廃棄物処理施設の周辺環境を 維持するため管理が必要である。	(コスト) 改善・改革等により 更に低コストで実施 できないか。(サービ ス・成果は維持)	Α	低コストで維持管理できている。
(H	- C < /	(効果性) 成果につながってい るか。進捗は予定ど おりか。※成果指標 に対する評価	В	ひかみクリーンセンター跡地については、埋め立 て処理が完了した。	(公平性・受益者 負担) 公平性に問題はないか。受益者負担 検討の余地はないか。		廃棄物処理施設の整備・整理事業は市民生活に不可欠なものであり、特定の受益者・対象者に偏っていない。

	総合的な評価と課題(成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事	項な	:ど)				
	・丹波市クリーンセンター附帯施設の整備は完了している。						
	・廃棄物処理施設の解体等は完了している。						
改	・解体後の跡地利用について、新たな事業での活用方策を検討中である。						
革							
+							
A							
C							
Т	今後の方向性・改善策等			一田 一	フレルナ		
				成果・コ	ストのカー	可性	
I	施設の廃止及び活用方策について、引き続き検討する。	_15		成果・J. 皆減	ないのう! 縮小	現状維持	拡大
I O		成果	拡充			· ·	拡大
I O N)		成果の		皆減		· ·	拡大
		果の方	拡充	皆減		現状維持	拡大
		果の	拡充現状維持	皆減		現状維持	拡大

●構成する予算小事業一覧

(単位:千円)

▼							-122 1 1 1 37
No.	予算小事業	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
1	一般廃棄物処理施設整備事業						
2	一般廃棄物処理施設整理事業	1,329	3,021	921	832	1,041	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
	合計	1,329	3,021	921	832	1,041	

●外部評価	[】年度実施		
指摘事項など			対応状況	